

専用球技場候補地選定までの主な経緯

時 期	内 容
H 2 2 年 1 1 月	「京都府におけるスポーツ施設のあり方懇話会」設置
H 2 3 年 1 月	「京都府におけるスポーツ施設のあり方懇話会」第 1 次提言 <スポーツ施設の重点的整備> 「国際的な試合や全国的な試合の開催が可能なサッカー等の球技場が京都府内にはないことから、競技場の新設を検討すべき。」
6 月	「京都・サッカースタジアムを推進する会」署名提出 署名数：479, 601人 提出先：京都府知事、京都府議会
9 月	第 6 回「京都府におけるスポーツ施設のあり方懇話会」 「具体的な整備場所を先に決定すべき」
1 1 月	専用球技場新設候補地調査（公募） 対 象：府内全市町村 調査期間：11 月 4 日から 12 月 12 日まで 応募件数：5 市町 （亀岡市、京丹波町、京都市、城陽市、舞鶴市）
H 2 4 年 2 月	「専用球技場用地調査委員会」設置
5 月	第 3 回「専用球技場用地調査委員会」 ・「安定的な集客や観客の大量輸送の可能性」「アクセスのしやすい環境」の観点から、当面の重点調査地域 3 箇所を選定（亀岡市、京都市、城陽市）
1 0 月	これまで 4 回の委員会を開催し、 ・重点調査地域 3 市の現地調査のほか、ボーリング調査等を実施 → 3 市とも技術的には建設可能 ・概算建設費等を試算 ・アクセス等利便性の確認 ・周辺整備計画、地元市としての支援策の検討
1 1 月 2 0 日	最終の委員会（第 8 回）開催 ・各委員から候補地選定意見を陳述
1 2 月 3 日	委員会報告 知事あて提出
2 6 日	「亀岡市」を建設予定地に選定

京都府におけるスポーツ施設のあり方懇話会委員名簿

伊坂 忠夫	立命館大学スポーツ健康科学部教授
今井 浩志	(株) パープルサンガ代表取締役社長
内田 昌一	京都府ソフトテニス連盟会長、(公財) 京都市体育協会会長
勝間喜一郎	(社) 京都府青少年育成協会会長
川村 誠	京都商工会議所副会頭
高木 剛友	(一財) 京都陸上競技協会副専務理事
多田羅隆文	スポーツコミュニケーションKYOTO (株) 代表取締役社長
田中田鶴子	京都府バドミントン協会会長
辻 浅夫	京都府サッカー協会会長、京都外国語大学外国語学部教授
長谷川好子	京都府レクリエーション協会副会長
堀場 厚	(社) 京都経済同友会特別幹事
★ 柘岡 義明	(公財) 京都府体育協会
真山 達志	同志社大学政策学部長・大学院総合政策科学研究科長
水野加余子	京都女性スポーツの会会長
南元 昭治	京都府バレーボール協会会長
森 洋一	京都府医師会会長
山本 誠三	京都府高等学校体育連盟会長

★=座長

専用球技場用地調査委員会委員

青山 公三	京都府立大学公共政策学部教授 (まちづくり)
上谷 宏二	京都大学大学院教授 (建築)
★ 大西 有三	京都大学理事・副学長 (地盤・地質)
柏原 康夫	社団法人京都府観光連盟会長 (地域経済)
釜本 邦茂	財団法人日本サッカー協会顧問 (スポーツ)
小林 潔司	京都大学経営管理大学院長 (都市計画)
寺島 泰	京都大学名誉教授 (環境)
柘岡 義明	財団法人京都府体育協会会長 (スポーツ)
森 博之	神戸ウイングスタジアム (株) 代表取締役社長 (スタジアム経営)

★=委員長

(注) 五十音順、職名は就任時

4 環境共生

◆希少生物との共生

◆市民参加の環境保全

サンクチュアリ(野生生物の保護区域)を
設け、アユモドキ等の棲息環境を創出



撮影者 平田 智法氏

天然記念物 アユモドキ

自然との共生と周辺環境

- ◆ 希少生物との共生
- ◆ 市民参加による環境保全
- ◆ 水棲生物の専門家の指導
- ◆ 水田や水路の保全



アユモドキ保護活動

- ◆ 照明光、騒音、交通渋滞など
住宅地との距離があり
周辺住民に影響がない

専用球技場用地調査委員会からの質問に対する亀岡市回答 第5回委員会 (H24.7.31)に報告

調査に対する回答 (亀岡市)

質問項目	回 答
<p>【用地確保】 ・候補地の決定(今夏を目途)までに用地確保の見通しを確実に立てることはできるのか。 また、借地契約による用地確保を前提としているが、借地期間、権利設定などどのように考えているのか。</p>	<p>7月26日に地権者に説明会を実施しました。 具体的な条件提示はしていませんが、誘致の決定後それに伴う年次計画に基づき、用地協力いただくよう求めました。</p> <p>△ 出席者総体としては、この事業が誘致されることを歓迎されており、誘致促進と必要な用地協力について異論はなく、引き続きすべての地権者への説明、同意が得られるよう進めます。 借地期間、権利設定についても具体的に詰まりきっていませんが、地権者の考え方等によっては用地買収への方向転換も視野に検討してまいる考えです。</p>
<p>【治水】 ・候補地は、桂川の洪水時において遊水地となる土地である。球技場の建設により、遊水面積が減少すると、沿川の他の地域で浸水が拡大するなど現状の治水安全度を低下させることになるが、市としてどのように考えているのか。</p>	<p>候補地一帯は、洪水時における状況から、JR亀岡駅に隣接しているにもかかわらず、今日まで都市的な土地利用が抑制されてきた地域であります。 近年、上流に日吉ダムができ、桂川の改修も京都府により積極的に進めていただいているところで、隣接する亀岡駅北地区では土地区画整理事業が実施されるまでに至りました。 本候補地を選定いただいた際には、本市としてもできる治水対策について、積極的に対応してまいります。</p>
<p>【環境】 ・提案されているアユモドキの共生ゾーン(約3.6ha)による生息地の保全について、どのように考えているのか。また地元環境保護団体の理解・協力は得られているのか。</p>	<p>アユモドキの保全にご尽力いただいている大学の先生や、環境保護団体と十分相談を行い、その指導を仰ぎ保護・保全に努めます。 なお、地元環境保護団体等の理解は得ています。</p>
<p>【大量輸送、アクセス】 ・JR亀岡駅からのアクセスとして、球技場候補地まで直結の高架橋を構想されているが、実現の見込みはどうか。</p>	<p>現在、亀岡駅北口から一級河川曾我谷川手前で右に直角に曲がっている市道を真っ直ぐ延伸し、曾我谷川を跨ぎスタジアムへ接続する計画で、すでに実施に向けた調査設計に着手しています。 この道路はスタジアムから先はアクセス道路として市道保津宇津根並河線(桂川右岸道路)を拡幅し、宇津根橋畔で府道郷ノ口余部線と接続する道路計画をしています。 本市としては、この道路を基本的に亀岡駅北口からスタジアムまでの入場者誘導道路として考えているところです。 直結の高架橋の設置については、亀岡駅北地区土地区画整理事業との整合の中で検討することとなりますが、高架橋による誘導導線まで整備をしなくとも観客誘導は十分行えるものと考えています。</p>

専用球技場予定地の土地利用想定



